

進む「農福連携」

皆さんは「農福連携」という言葉を聞かれたことがありますか？ 文字通り、農業の現場と福祉の現場が連携することであり、農業の担い手不足の問題と福祉の障害者等の働く場所がないという問題を解決する施策です。

京都府では、平成29年5月に「きょうと農福連携センター」が設立され、山城地域でも南部サテライト拠点の「（社福）京都聴覚言語障害者福祉協会 さんさん山城」（京田辺市）を中心に取組を進めています。

「さんさん山城」では、これまでに、地域特産のエビイモやナス、チャの栽培に取り組まれています。普及センターではその取組に対して支援を行うほか、29年度は、近隣の茶農家に茶苗木を供給するため、南部6つの福祉事業所を対象に5回にわたり「さし木研修会」の講師を務めました。

また、「さんさん山城」では、事業所内で栽培された農産物を使ったえびいもコロッケや宇治茶濃茶大福の販売や、コミュニティカフェを整備するなど、地域の住民や農家と連携されています。普及センターでは、今後とも「農福連携」を技術面から支援していきます。



さし木研修会での講義

気象情報を有効活用して農作物被害を防止しましょう

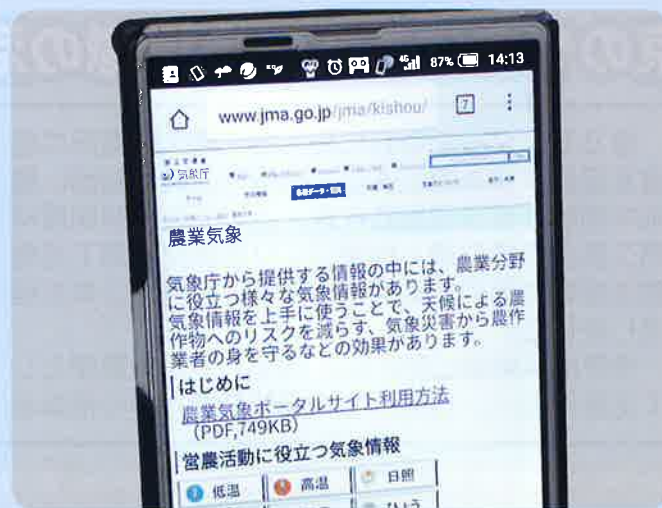
近頃の天気は、急な大雨・強風や長期にわたる曇天、あるいは雨不足など、不順な天候が頻発しています。このような環境においては、気象情報を上手に活用してできるだけ適期に農作業を行うことが非常に大切になっています。

気象庁のホームページには、テレビなどで普段よく目にする週間予報や1ヶ月予報などの他に、平均気温が平年より大きく異なる可能性がある場合に発表される「異常天候早期警戒情報」や、観測地点（京田辺市など）での過去のアメダスデータ（降水量、気温、日照時間など）が日ごとにデータ取り出しできる機能など、豊富な情報が掲載されています。

また、「農業気象ポータルサイト」も準備されており、例えば、「2週間先までに平年より高温になるかどうか調べ、水稻の高温対策を調べる」

といった使い方もできるなど、農家の営農活動に役立つホームページになっています。

みなさんも気象庁のホームページを活用して、農作物被害の防止に役立ててください。



農業気象のページ

(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>)